

らいぶスクエア

五感をつかった体験的な活動による食育の意図

食育
栄養教諭
神山 求実



◎磨こう！五感を大切に活動から広げよう！

食べ物の匂や特徴などを感じとることができるよう、五感をつかった活動を取り入れた授業内容を考えています。子どもたちの「視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚」をフルに生かした活動を取り入れることで、子どもたちは、知ってはいたものの十分に感じとることができなかつたことをしっかりと考えながら感じとることができます。そして、自分の生活と関連させて振り返ってみたり、イメージしたりと膨らみをもって「食」に接することでしょう。そして、子どもたちが“自分と食”のかかわりに目を向け、「えっ」と驚くこと、「なるほどなあ」と頷く姿、「あっ」と気づくことなど、今までとは異なった新たな“食”とのかかわり方への第一歩へとつながります。

『4年生 つるし柿を作ろう！』

4年生では、総合的な学習の時間に社会科と関連した『和歌山県の特産物である柿』を紹介します。子どもたちは、和歌山県が果樹王国であることを教科の学習、調べ学習や日々の生活の中で認識しています。そこで、この季節だからこそできる大事なお正月の準備として受け継がれている『つるし柿づくり』を毎年、継続的な取り組みのひとつとして実施しています。この活動をとおして、子どもたちは、渋柿の形を見る（視覚）・触る、皮をむく（触覚）・匂いを感じとる（嗅覚）・実際に渋柿をなめる、干した柿を食べる（味覚）などの実体験をしていきます。

【学習の広がり】

柿の品種

柿の成長

柿の栄養

つるし柿の作り方

渋いの味



つるし柿と串柿

先人の知恵

柿の変身

かつらぎ町

食文化

柿の葉っぱの活用

柿のことわざ

郷土愛

【子どもたちの反応】

- ・しぶい柿を甘くするには「干す」「アルコールにつける」など、いろいろな方法があるのだなあと思いました。干していないしぶい柿を食べてみると舌がしわっしわっとなり、おもしろかったです。早く自分で作った干し柿を食べてみたいです。
- ・しぶ柿の「しぶい」は知らなくて、どんな味かなあと思いがらなめました。「しぶい」の意味が分からなかったけど、なめてみて初めて「しぶい」が分かりました。
- ・柿は、けっこう有名なことを知りました。かつらぎ町は、フルーツの町なのでかつらぎ町に行って柿について調べたいと思いました。